脳神経外科のきほん

Case Study から学ぶ診断と治療

安部　欣博
（安部どうぶつ脳神経外科クリニック院長 / 上都賀総合病院 脳神経外科部長）

Case Study 6　脳神経外科手術の際に準備するもの

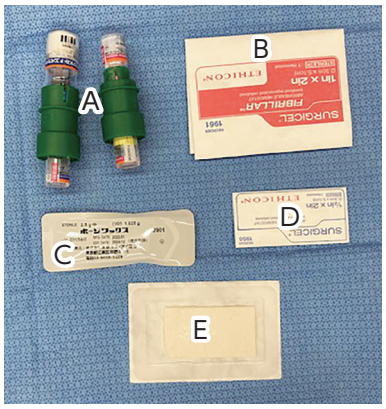
はじめに

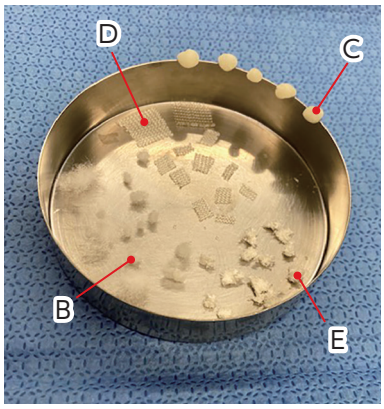
今回は、脳神経外科手術をする際に、私が準備しているものをご紹介します。手術するにあたって、何を用意しなければならないのか？ということは最初に考えるべきことですが、時代とともに変化していくものでもあります。日々、便利な道具が開発されていますので、どんどん良いものを扱っていくことが重要です。少なくとも、現在私が用意しているものをご紹介いたしますので、ご自身でアレンジしていただけると幸いです。

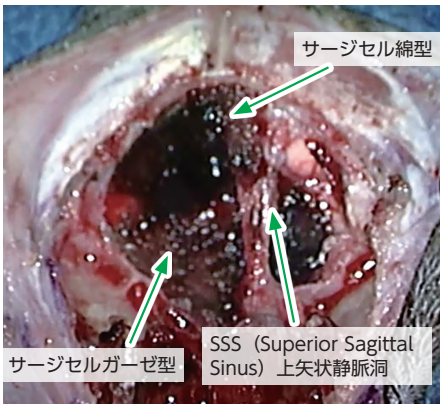
消耗品として用意すべきものとして、止血剤各種、フィブリンノリ、ベンシーツは必須です。道具に関して最も重要な三種の神器は、吸引管、バイポーラ、マイクロ剪刀です。このほかに、剥離子や鑷子なども必要ですし、開頭する道具も必要となります。もちろん、手術用顕微鏡やソノペットなども重要ですが、これは割愛いたします。

1）止血剤

各種出血原因によって使い分けていきます。それぞれ小～大まで大きさを変えて用意します。







A）ベリプラスト：フィブリン製剤
B）サージセル綿型：小さくして、細い静脈性の出血などに使用
C）bone wax：骨からの出血に使用
D）サージセルガーゼ型：脳表や白質部位の表面の止血に使用
E）アビテン：腫瘍内出血など細かい出血に使用
F）ゼルフォーム／スポンゼル：静脈洞や太い静脈の出血に使用
（※現在販売停止となっており手に入らず、サージセル綿型で代用）